

# 令和7年度 自己評価シート

認定こども園 おりーぶの森

## 1. 教育・保育理念

子どものよりよい成長と発達を願い 子どもには楽しさを 保護者には安心を 第一義に考え 地域になくってはならないこども園を目指す

## 2. 教育・保育方針

発達を促せるように、一人ひとりを大切に  
 ・生きぬく力、人のいたみのわかる 子どもを育成する  
 ・自己肯定感、自尊心の持てる 子どもを育成する  
 ・仲間とあそぶことにより、社会的な人格を形成するための基礎を育成する  
 ・自然に触れることにより、子どもの感性を育成する

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取り組み内容	自己評価
職員間の共通理解を図りながら、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、園の理念・方針にしたがい、全体的な計画を編成・実施している。	教育・保育要領を理解し、保育の中でどのように反映させていくのかを職員会議や園内研修などの機会に職員間で話し合い、共有し、活かしている。今後も全職員で共通理解を深めて、保育を行っていききたい。	A
指導計画は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、全体的な計画、子どもの実態などをもとに考えて作成し、評価・改善を行う	全体的な計画や教育課程をもとに各種指導計画を作成している。年度末の職員会議には、子どもの実態をもとに、年間指導計画の見直しを図っている。月間指導計画については以上児は期ごとの指導計画にし、子どもの育ちや成長をしっかり捉え、子どもの成長や興味関心に基づいて作成している。長い目で子どもを見つめ、臨機応変に対応できるよう努めている。行事は、ねらいや内容を明確に示し、指導案を基に実践している。今後、行事についても在り方を再確認し、より意味のあるものになるよう改善を図っていく。	B
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	日々の保育の中でのエピソードなどから、子どもの育ちを捉え振り返り、翌日の保育へと繋げている。日々、子どもの主体性を大切に考え尊重し、一人ひとりの興味関心を見逃さず、十分に満たしていけるような環境構成や子どものかかわり方について具体的に考え、保育の充実に努めている。今年度も出前相談を活用し、配慮が必要な園児へのアドバイスをいただくことができた。	B
各クラスの成果と課題を報告する。	日々のミーティングや職員会議で、保育の中のエピソードやクラスの様子などを報告したり、クラスの日誌やおたより、動画配信のアプリ内での閲覧などにより共有することで、子どもへの理解を深めたり、各クラスの保育内容を共有している。クラスミーティングでは、クラス担任全員で保育の実態を振り返ることで共通認識のもと保育を行うことができた。今後もよりよい保育を目指していきたい。また、合理的な配慮の必要な子どもや保護者についても、情報を共有し全職員で一貫したかかわりができるよう努めていきたい。	B
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人ひとり、発達課題が異なり、また、一つ一つの行動にはその子なりの意味があることを理解した上で、受容、共感することを大切にかかわっている。「なぜそのようなことをしたのか」ではなく、「どんな目的でそのようなことをしたのか」と行動の意図に目を向け問うことで、そして一人ひとりの声に耳を傾けしっかりときくことを徹底することで、一人ひとりの一つ一つの行動を肯定的に捉えていきたい。	B
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	子ども同士でのあそびの中で、共通の目的を持って相談したり工夫するなど、意欲的にあそびを広げている。保育教諭はそのために必要な環境を整え、感性豊かにかかわることを大切にしている。子どもの主体的な活動を大事にかかわるよう努めている。今後はさらに環境構成に重きを置き、生活の・遊びの充実に図っていききたい。	B

<p>規則正しい生活習慣の定着、手洗いうがいの定着等に向けての指導を行う。</p>	<p>今年度もプールあそびの時期に改めて朝食の大切さについて、視覚教材を用いながらわかりやすく話した。保護者に向けては、プールあそびでの事故防止であることも含めて、バランスの良い朝食を摂ることのお願いをした。だいぶ理解され徹底されていたように思う。就寝時間が遅いなど、生活リズムが乱れている家庭には、個別に働きかけるなどを行った。看護師による保健指導では、からだのしくみや生活習慣について学ぶとともに、手洗いの実践等を行った。日常生活の中で、丁寧な見守りやかかわりを行い、子ども自身がしっかり獲得できるようにしていきたい。</p>	<p>A</p>
<p>季節の草花を園庭に植える。生き物を飼育する。各コーナーのおもちゃ、絵本の充実を図る。</p>	<p>園庭には草花や木々があり、草花や虫などに身近に触れることができる環境がある。子ども達は草花や虫を積極的にあそびに取り入れ、日々様々な発見をしている。飼育しているうさぎは、お世話をしたり、金網越しに草をあげたりと年齢に応じた触れ合いを持っている。昆虫など、生き物の飼育の機会が全体的に少ないように感じる。各クラスですらに大切な機会と捉え大事に取り上げていきたい。各クラスのコーナーのおもちゃは子どもの興味や発達によって入れ替えるなど、保育環境の再構成を行っているが、子どもの興味関心を踏まえ、さらに見直し、充実させていきたい。</p>	<p>B</p>
<p>日々の生活と遊びのを通して「食」に関わる体験を積み重ねることで、「食を営む力」を育成する。</p>	<p>年齢ごとに畑やプランターで作物を育て、その生長に触れ、収穫した作物を実際に口にすることで、食べることへの興味関心が深まり、意欲的に食べようとしたり、「おいしい」と感じる事ができた。また、給食の食材に触れたり、野菜の皮むきや食材を切ることを手伝ったりする経験もできた。収穫した作物でクッキングを行ったり、4歳児から5歳児に継続される食育として、味噌づくりを行うことができ、食することができたのは、とても貴重な経験となった。</p>	<p>A</p>
<p>衛生管理を徹底し、感染症の予防と集団感染を防ぐ。</p>	<p>看護師による毎日のドアノブの消毒、おもちゃの洗濯や消毒、保育室の消毒などをより徹底し、引き続き感染症を含む各種感染症の予防や感染拡大防止に努めている。今年度はリンゴ病・インフル・胃腸炎の流行がみられたが、その都度室内環境の消毒を徹底的に行い、感染拡大を防ぐための対策を行った。</p>	<p>A</p>
<p>特別支援教育の理解を深め、一人ひとりに必要な配慮をしながら、発達の支援をする。家庭、医療機関、関係機関等との密な連携を図る。</p>	<p>配慮が必要な子どもに対しては、家庭や関係機関との連携を図りながら、一人ひとりの発達特性や障がいについて十分に理解した上で、個別の支援計画を作成し支援を行っている。他児とのかかわりの中で共に成長することを大切に捉え、合理的な配慮を行っている。今後は、療育支援や病院などとの連携を今まで以上に深め、より専門的な支援を行ってきたい。今後はさらに保護者を巻き込んだ支援が必要と考える。</p>	<p>B</p>
<p>小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。幼保小連携研修に参加する。</p>	<p>近隣の協力を得て、9月には運動会練習見学、12月には学校見学を行うことができた。小学校の運動会の様子に触れたり、教室で授業見学をしたり、校内見学をすることができた。また1年生と校庭で遊ぶ経験もでき、とても良い経験となった。また、子ども達が入学予定の小学校をバスで巡ることもでき、就学を控えた子ども達にとっては、とても貴重な機会となり、安心感や期待感へと繋げることができた。今後は、修了時の園児の姿を学校教師に実際に見て知ってもらう機会を提供したり、就学後の子どもの様子を見学させてもらう機会を作ってもらおう働きかけていきたい。</p>	<p>B</p>
<p>職員の安全管理の意識を強化する。火災・地震などの災害発生時、不審者侵入時の安全確保のための通報・避難・保護の方法手段を共有し、訓練を行う。防災・防犯マニュアルを策定する。</p>	<p>毎月の避難訓練やその他様々な災害を想定した訓練を行い、非常時に対する意識を持てるようにしている。今年度は職員が笛を保持し、非常事態の合図として笛を使用し、訓練を行ってきた。保育中の色々な場面での緊急時に全職員が主体的に判断し動けるよう、意識しながら保育を行ってきたい。</p>	<p>B</p>
<p>園だよりやホームページ等で、教育・保育の状況を伝え、保護者と情報共有を図るとともに、理念・方針への共通理解を図る。</p>	<p>日々の保育日誌はアプリで配信したり、連絡ノートで共有している。クラスの様子は、アプリに加えて園だよりやホームページ・Instagram等でわかりやすく伝えている。送迎時は、子どもの様子を保護者に伝え、共に成長を喜ぶ機会になっている。保育参観weekや保育参観では、日々の保育を見てもらい機会となり、今年度は新しくできた南の園庭で親子で遊ぶ機会を持つことで、理解を深められた。絵画足形展では、園で大切にしている描画活動やほだし保育の実践を報告・共有する良い機会となっている。今後はホームページからInsutagramでの広報活動に主軸を移しつつ、園の保護者のみならず、地域の人々に向けても情報発信をしていきたい。</p>	<p>A</p>
<p>地域の子育て家庭に対して、子育てに関する情報の提供や気軽に集える交流の場を提供している。</p>	<p>子育て支援「たんぽぽのへや」を週2回、その他の日は園庭開放を行った。子どもの主体的な遊びを大切にし、その重要性を伝えるよう心がけ、母親に寄り添い支援を行っている。今年度は、染め物を取り入れ、積極的に参加する保護者の姿が見られた。参加者が少ない日もあったため改めて、親子が気兼ねなく集い、家庭での子育てが豊かになるような支援を目指すとともに、看護師による栄養・発達相談が充実していけると良い。そして、地域の保護者同士を繋ぐ場になるよう努めていきたい。</p>	<p>B</p>
<p>教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。また、各研修会や研究会に積極的に参加し、職員に情報提供や資料提供をする。</p>	<p>学び続ける姿勢を大切にし、職員一人ひとりの技能・技術の向上を目指している。今年度は異年齢保育を実践するにあたりさまざまな園へ視察研修に行く機会があり、他園の異年齢保育の進め方や体制、環境などに触れることができた。また2月の研究発表研修会では、他園の保育教諭とグループディスカッションを行い、情報交換などの良い機会となった。今後の保育の形として、異年齢保育を目指しているため、全職員がそれに関する研修を行い、意見交換など行いながら、導入に向けて会議を重ねている。</p>	<p>A</p>
<p>職員の心得を熟読し、職員としての質の向上をはかる。</p>	<p>一人ひとりが認定こども園の職員としての自覚を十分に持ち、子ども、保護者、職員とかわっている。一人ひとりの個性や強みを活かしながら主体的に職務にあたっている。子ども一人ひとりに寄り添い尊重しながらかわることの大切さを共通理解できた。今後はさらに、一人ひとりが向上心と意欲を持って活き活きと働けるよう努めていきたい。</p>	<p>B</p>

#### 4. 総合的な評価結果

理 由	自己評価
南の園庭の完成により、築山、でこぼこの山、トンネル、泥んこなど、体を使って主体的に遊ぶ姿が多く見られ、とても良い環境が整いつつある。ただ、まだ樹木が育っていないために、真夏での日陰の確保が課題であると感じる。今後も年齢ごとに子どもの興味関心に応じた子ども主体の保育を心掛け、必要に応じて見直したり改善を図ったりし、子どものよりよい育ちを大切にできるようにしたい。後期は、行事や遠足などは、保護者の参加や協力を仰ぎ行うことができたものが多くあり、園と保護者とが協力して子どもたちの育ちを見守ることができた。また、今後、異年齢児保育を実践していくにあたり、職員間で研修や会議を行い、話し合いを重ねることができた。次年度以降も引き続き話し合いを重ねていきたい。	B

#### 「3. 4. 」の評価結果の表示

評価	十分達成されている	A
	達成されている	B
	取り組まれているが、成果が十分でない	C
	取り組みが不十分である	D

#### 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
主体性を尊重した保育	3,4,5歳児については、子ども同士の助け合い、自主性・主体性を育むこと、また年上の子がリーダーシップをとったり年下の子を真似て学んでいくことで、子どもの社会性や自然な発達を促すことを目的として、令和8年度より、異年齢児保育(お家保育)を実践をしていく。
保育の充実のための環境を整える	「一つ一つ丁寧に」を合言葉に、異年齢児保育を見据え、誰にとってもどの年齢にとっても目で見て分かりやすいユニバーサルな環境を整えていく。
地域社会に主体的にかかわることで、行為の主体として社会に参画していく	子どもも社会の一員であること、社会に貢献できる力を持っていることを日々の保育活動を通して伝えていく。地域の環境問題などについて考え、自分たちが今できることを考え行動することで、人の役に立つことの嬉しさ、楽しさを知っていく。
障がいの有無にかかわらず、一人ひとりの発達特性を理解した上で、必要な配慮や支援を行う	障害の有無にかかわらず、それぞれ得手不得手があり、一人ひとり、配慮が必要な時があることをまずは頭に置くこと。今何ができて、何に困っているのかなど、年齢・障害関係なく、子ども一人ひとりの状況をしっかりと見極め、理解した上で、合理的な配慮や支援を行っていくことが可能と考える。特に視覚情報優位の傾向があることから、絵カードなどを多用・活用していく。

## 令和7年度 保護者・こども園関係者評価

保護者会会長

いつも子どもたちの安全を第一に考え、丁寧に保育をしていただき、心より感謝申し上げます。普段から先生方の優しい言葉かけや細やかな気配りにより、園全体が穏やかで明るい雰囲気になっています。子どもたちはその中で安心して過ごし、毎日楽しく園生活を送ることができています。

日々の活動では、自主性を大切にした遊びや、たくさんの行事を通じて、子どもたちが五感を使ってたくさんの経験を積んでいることを感じます。先生方が一人ひとりの性格や発達段階をよく理解し、個性を大切に伸ばしてくださっていることに、保護者として深い安心と信頼を覚えます。

また、南の園庭の整備や異年齢児保育など、新しい取り組みに積極的にチャレンジされていることも素晴らしいと感じます。異年齢児と一緒に遊ぶことで、年下の子が思いやりを学び、年上の子がリーダーシップを発揮するなど、互いに刺激を受けながら成長できる環境が整っていると思います。園として常により良い保育を目指して取り組まれている姿勢に、深く敬意を表します。

今後も先生方の研修や話し合いを重ねていただき、さらに快適で豊かな保育環境を整えていかれることを期待しております。保護者としても、園の活動に理解と協力を惜しまず、一緒に子どもたちの成長を支えていきたいと思っています。

可能であれば、大きな変更や新しい取り組みの際には、保護者の意見や要望を伺う機会を設けていただけるとありがたいです。園と保護者が同じ方向に向かって連携することで、子どもたちにとってさらに良い園づくりにつながると信じています。

子どもたちの笑顔と成長のために毎日尽力されている先生方に、改めて心から感謝申し上げます。